

新潟大学佐渡自然共生科学センター

2024（令和 6）年度年次報告書

目次

1 佐渡自然共生科学センターについて	1
2 活動概要	1
2-1 各領域の活動概要	2
2-2 領域が連携して取り組む活動のハイライト	6
3 研究業績	7
3-1 研究論文・著書等	7
3-2 研究費	16
4 教育活動	18
4-1 学内の教育	18
4-2 佐渡3施設で実施した他大学等の教育	19
4-3 佐渡3施設で実施したその他の教育	20
4-4 施設利用状況	20
5 地域連携と社会活動	21
5-1 佐渡市との連携による事業	21
5-2 新潟県との連携による事業	21
5-3 その他の地域連携・社会活動	21
5-4 シンポジウム・セミナー等の開催	23
6 資料	24
6-1 報道関係	24
6-2 構成員	24

1 佐渡自然共生科学センターについて

新潟大学佐渡自然共生科学センターは、佐渡島にあった農学部附属フィールド科学教育研究センター佐渡ステーション（演習林）、朱鷺・自然再生学研究センター、理学部附属臨海実験所の3施設が2019年4月に統合して、佐渡島の森里海の自然共生科学を展開する総合的な教育・研究センターとして発足した。本センターは森林・里山・海洋の各領域とコミュニティデザイン室（以下、CD室と略す）からなり、佐渡島の森里海の生物多様性・生態系の仕組みを解明すると同時に、社会・歴史などとの複合領域の自然共生科学を追求し、佐渡島の豊かな自然環境を活かした持続可能な自然共生社会を提案し、教育・研究・地域連携・国際交流を推進するとともに、地域と創り上げるシチズン・サイエンスの実現を目指している。

2 活動概要

2024年度は、佐渡自然共生科学センターの取り組みについて広く情報発信するためのセミナー等の開催を強化した。まず、佐渡自然共生科学センターの森・里・海各領域とCD室で実施している研究や取り組みを学内に紹介する目的で、「ランチセミナー」を2024年10月から2025年3月にかけて4回実施した。また、2025年3月には「野生鳥類の再導入」をテーマにシンポジウムを開催した。トキ交流会館を会場に、オンラインを含むハイブリッド型で実施したシンポジウムには、全国から計172名の一般市民と研究者（うちオンライン参加149名）が参加した。コウノトリとトキの野生絶滅前の卵採取作戦に参加した研究者らが話題提供を行い、再導入のこれまでと今後の展開可能性について議論した。他にも、佐渡市民を対象とした講座、ワークショップ等を多数開催した。

第Ⅲ期事業に更新された文部科学省の教育関係共同利用拠点事業では、森林領域と海洋領域を中心として、他大学ならびに本学学生を対象に実習等の対面での教育活動に加えて、オンラインコンテンツを利用したリアルタイムおよびオンデマンド型のハイブリッド形式の教育活動も展開した。

森里海が連携しての教育活動も拡張した。3つの領域の共同で「森里海フィールド実習（学内・学外対象）」を実施したほか、新潟大学の教養教育に関する授業科目（Gコード科目）として「佐渡学概論：佐渡島の自然と人々の営み」と「佐渡自然共生国際実習」を新たに開講した。「佐渡学概論」では、当センターの教員の講義に加えて、他学部の教員が佐渡で展開している多様な分野の調査研究、地域事業について解説する内容で、佐渡島の自然と文化を包括的に学ぶ機会を提供した。

当センターでは、佐渡の生物多様性・環境等のオープンデータベースを作成し、佐渡自然史博物館構想と連動したシチズンサイエンスプラットフォーム構築を準備している。これまで、演習林が所蔵するさく葉標本 643 点のデジタル化をすすめて地球規模生物多様性情報機構（GBIF）データベースへの登録手続きを進めると同時に、（国開）森林総合研究所に樹木 26 種の木材試料及びさく葉標本を提供し同研究所 TWTw データベースに公開された。また、臨海実験所では所蔵している 2,518 種からなる約 4,000 点に及ぶ日本海佐渡海域水生生物標本のデジタルデー

タをリスト化し JBIF への登録申請を行い、1964 年以降の海水温と透明度の定点観測データとともに臨海実験所ホームページにて公開した。里山領域においても、所蔵する昆虫標本のデジタル化を開始した。

また、今年度からは公益財団法人上廣倫理財団からの寄附研究部門として「里山共生研究部門」が立ち上がり、森里海をフィールドとした次世代育成という観点からの取り組みが強化された。

2-1 各領域の活動概要

森林領域／演習林

森林領域は、大佐渡北部稜線上に大学が所有する約 500ha の天然林・人工林を中心として、島内・島外の森林において植生学・森林生態学・種生態学・動植物相互作用学などの研究を展開すると共に、農学部・理学部の実習を担当し、教育関係共同利用拠点として他大学の実習も多数実施している。

4 月には本学に所属する内部委員及び外部有識者で構成される共同利用運営委員会の会議をオンラインで実施した。

5 月～10 月（無雪期間）に、公募型・受託型・フィールド利用型を主とした他大学共同利用実習、農学部及び自然科学研究科の学内実習、他学部による学内共同利用実習を行った。他大学共同利用実習 14 件、学内実習 8 件、学内共同利用実習 3 件が実施され、延べ利用者数は 1,201 名であった。新潟大の農学部・理学部を除く利用機関数は 42 であった。また、一般向け公開実習及びセミナーが 2 件実施され、延べ利用者数は 16 名であった。学内外の一般利用（調査研究等での利用）の延べ利用者数は 1,350 名であった。

新型コロナウイルス感染症の第 5 類への移行を受け、昨年度に引き続き実習参加人数を定員 27 名として実習の運営を行った。また、昨年度に更新を行った With コロナ時代の共同利用実習実施に向けたガイドラインについて、引き続きこれを踏襲する形で実施した。具体的な内容として、実習中の食事を弁当に切り替える、実習中における手洗いうがいの徹底をお願いするなどの措置がとられた。

実習の公募や活動報告を行うために、ホームページ、ブログ、Facebook を随時更新して情報を発信した。令和 5 年度にリニューアルした演習林のホームページを随時更新し、動画コンテンツや演習林で保管されている植物標本の情報を集約することで、これらのコンテンツをより多くの人々が利用できるよう努めた。また、演習林や佐渡島内の自然に関する情報を発信するため、ブログ記事を頻繁に更新するように努めた（2024 年 4 月～2025 年 2 月に計 65 回）。

里山領域／朱鷺・自然再生学研究施設

里山領域では、新穂潟上にある朱鷺・自然再生学研究施設を拠点として、佐渡のシンボルであるトキの再導入生物学の確立や地域の生物多様性の実態の解明、生態系の復元手法の開発、自然共生に向けた社会システムの構築などにかかわる研究を進めている。自然科学と人文・社会科学

の融合を図り、学際的環境科学を推進するとともに、地域住民や行政機関との連携による調査や教育活動にも取り組んでいる。

佐渡の里山の象徴である「トキをシンボルとした自然再生」に関する座学に加えて「朱鷺・自然再生フィールドワーク」実習を実施した。また、専門科目として理・農学部学生を対象とした「自然再生学実習」を実施し、「里地里山再生学」、「希少生物保全学」を開講した。

文理融合の自然共生プロジェクトとして、ほ場整備におけるサドガエル保全を目指した取組を、行政機関・地域との連携のもと継続して進めた。具体的には、域学連携のもとサドガエルの移殖を実施し、その後のモニタリングを行ってきた。モニタリング調査では3つの手法を比較することで、整備後を見据えた最適なモニタリング方法の基礎的検討を行い、関係機関との情報共有を図った。そして、ここで得たデータを用いて整備エリアにおけるサドガエルの生息環境に関する研究を進めた。整備過程で偶発的に発生した環境（切土区間に発生した水場）が一大繁殖地となっていたことや、ミティゲーションの放逐先エリアではサドガエルが居着いていないことなど、今後の整備のなかで配慮すべき事象を明らかにし、行政と連携して今後の市民参加型ミティゲーションの具体的な展開を協議した。

再導入トキ個体群では、コロニー繁殖参加つがいの増加により繁殖成績が低下すると同時に、新たに放鳥した個体の初期生存率が低下することで密度効果が生じていることを明らかにした。トキの営巣適地マップを作成するために、トキの営巣木、及び、営巣林選択に関する研究を実施した。トキ認証米制度による環境保全型農法は、トキの採餌だけでなくウミネコの水田利用を促進していることを明らかにした。

佐渡固有種のサドガエルは、越冬したのち変態すると考えられていたが、栄養条件が良い飼育下では秋までに変態して上陸することがわかった。どんな条件で越冬し、あるいは、当年のうちに変態するかを明らかにするための研究を進めている。また、池の食物網におけるオタマジャクシとその捕食者である肉食性の水生昆虫を材料とした操作実験を通して、被食者の成長とともに「食う-食われるの相互作用」がどのように変化するかを解明する研究を開始した。

海洋領域／臨海実験所

臨海実験所は、フィールドワークを通して海洋生物の多様性とその成り立ちについての実践的高等教育を行うというミッションを基に、佐渡島に残されている豊かな自然環境と生物相を利用して、海洋生物の多様性と生理学・生態学・発生学に関する高度な教育・研究を行っている。生物の多様性と普遍性の理解は、生物学の教育・研究の基礎となるものであり、2024（令和6）年度は、新潟大学の理学部理学科（2年生）、同生物学・地質科学・自然環境科学の各プログラム（2、3年生）、理学部・農学部のフィールド科学人材育成プログラム（2、3年生）の学生、全学部の学生、全研究科の大学院生を対象にした臨海実習や講義を通して、基礎生物学及びフィールド科学の教育・研究に貢献した。

また、佐渡自然共生科学センターの他の領域/施設（森林領域/演習林、里山領域/朱鷺・自然再生学研究施設）と協同して、森・里・海をつなぐ生態系についての高度な知識と見識を持つ人材

の育成を行った。当実験所は、2017（平成 30）年度から 2022（令和 4）年度まで、文部科学省の教育関係共同利用拠点「佐渡島生態系における海洋生物多様性・適応生理生態学教育共同利用拠点」として活動してきたが、2023 年度からは、新たに「佐渡島の森里海生態系における多様な生物相を活用した国際海洋生物学教育共同利用拠点」として認定され、国際実習やオンライン実習を交えた多様な教育活動を行っている。教育共同利用として、2024 年度には、学内外の実習 26 件を含め、延べ 1,300 名以上が本実験所を利用した。また、昨年度に引き続き“International Marine Biology Course 2024”として国際臨海実習を実施した。JST さくらサイエンスプログラムの支援を受けて、バングラデシュ農業大学（バングラデシュ）、チャットグラム獣医動物科学大学（バングラデシュ）、ハノイ国立教育大学（ベトナム）、コーチン科学技術大学（インド）、モナッシュ大学マレーシア校（マレーシア）、香港大学（中国）の 6 つの海外研究教育機関、国内 1 大学から 19 名を招聘することができた。これに新潟大学個性化科目「佐渡自然共生国際実習」及び公開臨海実習「国際臨海実習コース」の受講者を合わせた計 32 名が現地にて参加した。加えて、一部プログラムをリアルタイム配信によるハイブリッド形式で実施することにより、オンラインでも 34 名が参加した。また、海外からの招聘者は、新潟大学五十嵐キャンパスで開催された国際会議 “International Congress on Natural Science with Sisterhood Universities 2024” にも参加し、研究発表や文化交流を行った。

昨年度に引き続きオンデマンド実習教材の充実を図った。臨海実験所ホームページにて公開中の佐渡の海洋生物図鑑を随時更新した。現在は 277 種の解説が掲載されており、複数の動画が 1,000 回以上再生されるなど、実習参加者を中心に活用されている。また、所蔵する水生生物標本の利用を促進する目的で、標本情報を JBIF 日本生物多様性情報イニシアチブのデータベースに登録した。

地域・社会連携については、高校生を対象とした公開臨海実習を実施した。また、小中学生や一般の佐渡市民向けの実習の実施、講演会やイベントへの参加を行った。海洋教育に関する社会啓発活動として、BSN 新潟放送が主催する県内小学生対象の環境学習イベントへの協力を行った。

人員として、4 月 1 日付けで本間悟事務補佐員を採用した。また、飯田碧准教授が 11 月 1 日付けで北海道大学に転出した。

施設・設備については、海水ポンプの改修やクライオスタットの更新を行い、研究・教育環境の向上を図った。また、災害等の緊急時に備え、引き続き避難用品の充実を図った。

コミュニティデザイン室

佐渡島を舞台に、新潟大学ならびに外部の研究者や企業との連携を図りながら、自然共生という価値の追求と持続可能な地域の発展につながる実装型プロジェクトを推進するため、2020 年 1 月に開設された。

2022 年度に佐渡市・株式会社 NTT データとの共同研究として開始した「佐渡島自然共生ラボ」という自然共生をテーマとするリビングラボの企画・運営では、竹や海藻などの未利用自然資源

の活用や、エシカル生産・消費の拡大、生物多様性佐渡戦略の改訂に向けたプロジェクトなどを地域ステークホルダーとの協働で展開し、自然共生社会の実現に向けた具体的な取り組みを推進した。また、佐渡市をフィールドに環境保全や持続可能な地域社会の構築に取り組む人々が参集し情報交換を行う「自然共生のみらい会議」を11月24日に開催し、アクターのネットワーク強化につなげた。

朱鷺の島地域再生人材創出事業では、佐渡市との連携講座である「ジオパークガイドフォローアップ研修」を3回（参加者延べ9名）、佐渡市理科教育センターとの連携講座である「学校教職員対象研修」を4回（参加者延べ44名）、市民との共同企画による「里山体験ガイドフォローアップ研修」を3回（参加者延べ41名）実施した。また、これまでの評価として事業に参加した市民に対するアンケート調査を行い、24名からの回答を得た。すべての回答者が事業の内容について満足したと答えたほか、講座を通して自然再生や環境学習に関する技術を習得することができただけでなく、人脈の形成につながったことが大きな収穫だったとの回答を得た。

里山共生寄附研究部門

2024年度に開設した寄附研究部門では、佐渡島の森里海をフィールドに、中高生や若者を対象とした学びの場づくりを進めている。探究心を刺激する学びの支援や、学校に通えなくなった子どもたちの学習サポート、多様な学びのあり方を考えるセミナーの開催などを通して、また地域住民との連携で、子ども・若者がそれぞれの個性や興味関心を追求できる学びの機会の提供と支援体制の構築を行っている。今年度は、里山共生寄附研究部門開設記念として「共に考える学びの未来」と題したシンポジウムを開催し、教育現場における学びの多様化や個性が生きる学びに関する講演やパネルディスカッションを行った。

多様な体験イベントも開催しており、市内で環境保全活動や地域活動に取り組む方々を講師に招き、体験活動や座談会を行う中で、大人たちが子どもたちとどのように関わることができるのかを考える「地域で子どもたちを育てよう お話し会」を3回実施した。その他、佐渡島内でのものづくり、農業、伝統文化継承に取り組む方々を訪問し、作業を体験する「佐渡のお仕事見学ツアー」を3回実施し、子どもたちが将来の職業選択について考える一助となるような機会を提供した。

学習に難しさを抱えている子どもたちに対する学習支援では、不登校の状態にあった中学生が復学したほか、要支援の小学生が目標を持って学ぶためのサポートを行うなど、実質的な成果をあげることができた。

2-2 領域が連携して取り組む活動のハイライト

森里海の研究

里と河川をつなぐ動物の生態研究

本研究では、季節によって異なるリターが、流程に沿って変化する水生昆虫にとって果たす役割を明らかにすることを目的とした。新潟県佐渡島外海府海岸の小規模河川・大野川において、2023年8月から2024年6月にかけて、堆積リターの組成を明らかにするためのメタゲノム解析を実施し、リターに付着する水生昆虫との関係及びその季節変動を検証した。その結果、上流と中流では、落葉期にクルミ科やミズキ属、オノエヤナギなどの落葉広葉樹、それ以外の季節ではクズなどの草本やスギの検出割合が高くなった。下流では、8月から12月に草本の割合が高くなり、それ以外の時期はハンノキなどの落葉広葉樹の割合が高くなった。水生昆虫について、上流と中流では、落葉期は端脚目やカクツツトビケラ科などの破碎食者が優占し、落葉期以外はマダラカゲロウ科やオナシカワゲラ科、ミドリカワゲラ科などが優占した。下流では、端脚目は出現せず、8月と9月にカクツツトビケラ科が優占したが、それ以外の時期はカワゲラ科やブヨ科、マダラカゲロウ科などの破碎食者以外が優占した。これらの結果から、流下物の季節的な変化や、流程に沿った水生昆虫相の変化に伴って、堆積リターの水生昆虫にとって果たす役割がシフトしている可能性が示唆された。(阿部晴恵、飯田碧)

森里海の教育と情報発信

1) 森里海の野外生態実習

佐渡島は、森、里山、里地、川、海が近い距離に存在し、それらの生物多様性やつながりを学ぶ絶好のフィールドである。この環境を活かして、森里海の3領域の連携で、新潟大学の全学部生を対象とする新潟大学個性化科目、及び全国の大学生を対象とする公開臨海実習として「森・里・海フィールド実習」を毎年夏に行っている。約1週間の行程で、トキの野生復帰の現場や里山の環境、河川や海の生物の観察、島ならではの森や植生の観察、人と自然との関わりに関する学習から、生物多様性やそれらのつながりを理解することを目的としている。

2) 佐渡自然共生科学センターシンポジウムの開催

2025年3月8日に「野生鳥類の再導入」をテーマにシンポジウムを開催した。2024年度で退官となった永田尚志センター長の最終講義として基調講演を行なったほか、兵庫県立大学・教授の内藤和明氏および日本野鳥の会・参与の金井裕氏にも登壇いただいてパネルディスカッションを行い、トキやコウノトリの再導入のこれまでと、今後の展開可能性について議論した。

3 研究業績

3-1 研究論文・著書等

論文（英文・和文の順, 筆頭著者アルファベット順）

	著者名	タイトル	雑誌名・巻(号)	ページ	年
1	<u>H. Abe</u> , S. Ueno, A. Matsuo, S. Hirota, H. Miura, Mong-Huai Su, Yun-Guang Shen, Y. Tsumura, Y. Suyama, Zhong- Lang Wang	Evolutionary Histories of Camellia japonica and Camellia rusticana	Ecology and Evolution 14(12)	e70721	2024
2	D. Bozdogan, S. Takizawa, <u>N.</u> <u>Furukori, K.</u> <u>Homma</u> , <u>H. Abe</u> , <u>H. Sakio</u> , N. Harada, K. Suzuki	Pond Water eDNA Reflects Broad Consistency with Surrounding Terrestrial Plant Ecosystems	Biology 14 (1)	62	2025
3	<u>P. Chowdhury</u> , <u>M. Iida</u>	Zooplankton communities in late spring: A case study from Sado Island	Aquatic Animals	AA2025 -3	2024
4	<u>P. Chowdhury</u> , <u>M. Iida</u>	Plankton diversity and distribution in marine ecosystem in Japan	International Journal of Fisheries and Aquatic Studies	131–135	2024
5	<u>N. Furukori, K.</u> <u>Homma</u>	Effect of water edge structure on aquatic insect communities in wetland biotopes created for biological conservation: research performed immediately after field development	Paddy and Water Environment 22(4)	581–599	2024
6	K. Maeda, H. Kobayashi, <u>M. Iida</u> , H. D. Tran	Taxonomy of freshwater gobies of the genus Rhinogobius (<i>Oxudercidae</i> , <i>Gobiiformes</i>) from central Vietnam, with descriptions of two new species	Zootaxa 5493(5)	507–541	2024
7	M. Nakamura, C. Terada, K. Ito, T. Hiura, H. Shibata, T. Miki, T. M. Saitoh, M. Takagi, T. Hougén, S. S. Matsuzaki, M. Watanabe, H. Tado, N. Hotta, Y. Kosugi, N. Aiko, N. Kojima, N. Katagiri,	Physiological profiling of the soil microbe community using the EcoPlate and assessment of soil properties at 74 planted forest sites across Japan	Ecological Research 40(2)	91–242	2025

	著者名	タイトル	雑誌名・巻(号)	ページ	年
	K. Kishimoto, T. Yoshida, Y. Tsunoda, T. Takamiya, K. Ito, Y. Utsumi, T. Yoshikawa, K. Tanaka, M.Oda, N. Agetsuma, M. Kawai, T. Fujita, T. Hishi, H. Shimada, T. Ichie, K. Hoshizaki, H. Kobayashi, T. Seino, M. Noguchi, D. Nagamatsu, H. Saito, R. Tatenno, M. Iwamoto Ishihara, Y. Kitagawa, Y. Hisamoto, <u>K. Homma</u> , T. Hirao, T. Otani, M. Toda, J.Terada, T. Kume, K. Fukuzawa, A. Takashima, K. Kurose, S. Fujii, S. Itoh, T. Ohta, K.Otsuki, T. Nagaike, K. Hasegawa, M. Kobayashi, M. Shirahata, S. Matsuki, M. Hatanaka, S. Suzuki, N. Muro, T. Yamoto, N.Adachi, N.Kaneko, T. Yamashita				
8	H. Nakayama, R. Takada, T. Miyake, K. Miyake, T. Nirei, <u>H. Sakio</u>	Floral deception in dioecious <i>Actinidia polygama</i> (Actinidiaceae) revealed by differential nitrogen investment in male organs	Plant Species Biology 39	249–259	2024

	著者名	タイトル	雑誌名・巻(号)	ページ	年
9	A. Naziat, S. M. M. Islam, J. Chakrabarty, B. A. Paray, Md. Zahangir, <u>H. Ando</u> , Md. Shahjahan	Elevated temperature impairs gonadal development by suppressing the expression of the genes for kisspeptin, GnRH1 and GTH subunits in Nile tilapia <i>Oreochromis niloticus</i>	Comparative Biochemistry and Physiology Part A: Molecular & Integrative Physiology 294	111714	2024
10	G. Saboret, C. Moccetti, <u>K. Takatsu</u> , D. J. Janssen, B. Matthews, J. Brodersen, C. J. Schubert	Glacial meltwater increases the dependence on marine subsidies of fish in freshwater ecosystems	Ecosystems (27)	779–796	2024
11	<u>H. Sakio</u> , T. Masuzawa	The leaf litterfall patterns of <i>Alnus alnobetula</i> subsp. <i>maximowiczii</i> Chery at the timberline of Mt. Fuji, central Japan	Journal of Fujiology 20(1)	1–8	2024
12	K. Sawada, Y. Watanabe, <u>K. Kobayashi</u> , Y. Magome, <u>H. Abe</u> , T. Kamijo	Multidimensional niche partitioning allows coexistence of multiple snake species	Journal of Zoology	jzo.13259	2025
13	M. Shahjahan, M. L. Rahman, Y. Ohno, M. M. Zahangir, <u>H. Ando</u>	Lunar age-dependent oscillations in expression of the genes for kisspeptin, GnIH and their receptors in the grass puffer during the spawning season	Zoological Science 41	97–104	2024
14	<u>K. Takatsu</u>	To metamorphose or overwinter? The case of an endangered anuran endemic	Wetlands (45)		2025
15	岩浅有記, 豊田光世, 西牧孝行, 鎌田磨人	希少生物保全を核とした政策形成プロセスの分析～トキ野生復帰に向けた認証米制度創設にみる自然環境政策と農業政策の統合～	景観生態学 29	99–109	2024
16	久保満佐子, 懸野友晴, 須貝杏子, 井上雅仁, <u>崎尾 均</u> , 立花寛奈	隠岐諸島の樹木組成の特徴—対馬諸島と佐渡島との比較から—	日本森林学会誌 106	109–115	2024
17	<u>崎尾 均</u>	佐渡島におけるサイエンスカフェの取り組みと展望.	日本の科学者 59(8)	53–59	2024
18	指村奈穂子, 鈴木正樹, 古本良, <u>阿部晴恵</u>	佐渡島におけるヤマトグサの分布と環境条件の関係	季刊地理学 76(3)	93–105	2024
19	<u>新田将之</u> , 青木宗之	住民参加型川づくり実施区間における年齢層別にみた親水利用の特徴と環境要因	河川技術論文集 30	65–70	2024

	著者名	タイトル	雑誌名・巻(号)	ページ	年
20	新田将之, 伊藤海音, 廣瀬裕一, 二宮仁志	丘陵地域におけるため池に対する担い手評価構造の世代間比較分析	農業農村工学会論文集 92(1)	I_51–I_63	2024
21	豊田賢治, 松倉君予, 飯田 碧, 豊田光世, 阿部晴恵	アカテガニの造巢地としての生木・枯木の根株周辺の利用	水生動物	AA2025-5	2025
22	渡邊匠海, 豊田光世, 柴田嶺	アンケート調査による森林由来カーボンクレジットの購入者の分析—新潟県版 J-クレジットにおける事例—	日本森林学会誌 107(2)	17–25	2025

書籍（英文・和文の順, 筆頭著者アルファベット順）

	著者名	タイトル	書籍名（編者）	ページ	出版社	年
1	阿部晴恵	小さなメジロが繋ぐ大きな輪	タネまく動物: 体長150センチメートルのクマから1センチメートルのワラジムシまで (編:小池伸介, 北村俊平)	84–87	文一総合出版	2024
2	安東宏徳, 他		はみだし生物学 (「はみだし生物学」制作委員会著)	99	化学同人	2025
3	永田尚志, 岡久雄二	大型鳥類の野生復帰	野生動物の保全と管理の事典	395–398	朝倉書店	2025
4	岡久雄二, 永田尚志	トキ	野生動物の保全と管理の事典	398–403	朝倉書店	2025
5	崎尾 均	水辺林—多様な水辺攪乱に適応した樹木の集まり.	日本の森林, 森・人・生き物の多様な関わり (日本森林学会編)	7–8	朝倉書店	2024
6	崎尾 均	佐渡島の森—スギ・ヒノキアスナロ・ブナ・タブノキが織りなす多様な姿	日本の森林, 森・人・生き物の多様な関わり 日本森林学会編)	55	朝倉書店	2024
7	崎尾 均		ここがすごい! 水辺の樹木		築地書館	2024
8	豊田光世	災害に強いコミュニティを育てるためには?	自然災害と地域づくり: 知る・備える・乗り越える (本田明治, 長尾雅信, 安田浩保, 坂本貴啓, 高田知紀, 豊田光世, 村山敏夫, 岡本正)	81–97	朝倉書店	2024
9	本間航介		フィールド調査のための安全管理マニュアル (日本生態学会監修. 野外安全管理専門委員会編著)	175	朝倉書店	2025

報告書等

	著者名	タイトル	報告書名	ページ	年
1	<u>祝前博明</u>	黒毛和種の育種改良における遺伝的評価の進歩-外貌審査, BLUP法, ゲノミック評価	日本畜産学会報第 96 巻第 1 号	49-51	2025
2	<u>豊田光世</u>	「合意形成学」から考える, 「わかりあえない」を創造性に変える話し合いのデザイン	Forbes Japan 123	106-109	2024
3	<u>本間航介</u>	新潟県佐渡市「トキと共生する佐渡の里山」	森林技術 988	16-21	2024
4	<u>豊田光世</u>	探究的な対話をつくる「P4C」	教育新聞・連載コラム (全 10 回)		2025

国際学会・会議での発表 (発表年月順)

	発表者名	タイトル	学会名	会場	年月
1	<u>M. Iida</u>	Marine organisms in various environments and migratory ecology of fish in temperate regions: example of Sado Island	MARICON-2024 International Conference on Frontiers in Marine Sciences	Kochi, Kerara, India (Online)	2024/04
2	<u>A. Omori</u> , Li, Y., Wang, W., H. Kohtsuka, N. Irie, M. Kondo	Examination of the BMP and Nodal signaling related genes in the development of a feather star <i>Anneissia japonica</i>	17th International Echinoderm Conference & 2nd International Hemichordate Meeting	Puerto de la Cruz, Tenerife, Spain	2024/07
3	<u>M. Toyoda</u>	Building a tool for evaluating multi-stakeholder collaboration for ecological sustainability: an experimental study of the Sado Living Lab	East Asia Research Association for Agricultural Heritage Systems	Gifu	2024/08
4	<u>K. Kawasaki</u>	Face perception in a group-living Cichlid Fish	International Congress on Natural Sciences with Sisterhood University 2024	Niigata	2024/09
5	<u>A. Osabe</u> , <u>A. Omori</u>	Study on Molecular Mechanisms Underlying the Development and Differentiation of Mesenchyme cells in the Feather Star	International Congress on Natural Sciences with Sisterhood University 2024	Niigata	2024/09
6	<u>H. Sakio</u>	Flower and seed production synchrony in male and female individuals of the dioecious tree <i>Fraxinus platypoda</i> -Long-term research for 37 years-	International Symposium on plant phenology and climate feedbacks mediated by BVOCs (PCF2024)	Gifu	2024/10
7	<u>M. Toyoda</u>	Community-driven rice terrace conservation in Sado, Japan	RIHN/Kyoto University Seminar	Kyoto	2025/02

	発表者名	タイトル	学会名	会場	年月
8	<u>H. Abe</u> , S. Ueno, A. Matsuo, S. Hirota, H. Miura, Mong-Huai Su, Yun-Guang Shen, Y. Tsumura, Y. Suyama, Zhong-Lang Wang	Evolutionary history of Camellias in Japan	2025 International camellia congress, Tokyo, Japan	Tokyo	2025/03
9	<u>M. Toyoda</u>	Dialogical thinking for democratic engagement: exploring dialogue-based education and community development	Symposium: Exploring Japan-Hawaii p4c Connections	Honolulu, HI	2025/03

国内学会・会議等での発表（発表年月順）

	発表者名	タイトル	学会名	会場	年月
1	<u>飯田 碧</u>	佐渡島における通し回遊性生物の分布と生息環境	2024 年度ゴリ研究会	那覇	2024/04
2	<u>豊田光世</u>	価値を探究する「子どもの哲学」の教育論から多様性時代の家庭科教育を考える	日本家庭科教育学会 第 67 会大会	オンライン	2024/07
3	<u>安東宏徳</u>	産卵回遊の神経内分泌制御の分子機構に関する研究	第 48 回日本比較内分泌学会大会	函館	2024/08
4	片田祐真, <u>Chen Junfeng</u> , 沖村光祐, 山口大輝, 中山友哉, 丸山迪代, <u>安東宏徳</u> , 黒川大輔, 吉村崇	クサフグの産卵リズムの地域差に関する比較解析	第 48 回日本比較内分泌学会大会	函館	2024/08
5	赤石澤大貴, <u>豊田光世</u>	環境活動従事者の行動原理に関するインタビュー調査	日本環境教育学会第 35 回年次大会	千葉	2024/08
6	<u>安東宏徳</u> , Md. <u>Shahjahan</u>	クサフグの TRPV1a mRNA の脳内分布と間脳における温度依存性発現	日本動物学会 第 95 回 長崎大会	長崎	2024/09
7	<u>永田尚志</u> ・古屋裕奈	佐渡島で再導入されたトキの営巣場所選択	日本鳥学会 2024 年度大会	東京	2024/09
8	三上花・ <u>永田尚志</u>	マツ枯れ被害木伐採に伴う新潟市海岸林の鳥類群衆構造の変化	日本鳥学会 2024 年度大会	東京	2024/09
9	小野寺尚美, 石井森昭, 山田宜永, 杉山稔恵, 谷口幸雄, 金子良則, <u>祝前博明</u>	飼育下におけるトキの生存性の遺伝率の推定	日本鳥学会 2024 年度大会	東京	2024/09

	発表者名	タイトル	学会名	会場	年月
10	角野歩夏, 石井森昭, 山田宣永, 杉山稔恵, 谷口幸雄, 金子良則, 祝前博明	トキ飼育下個体群における始祖個体の遺伝的寄与率および遺伝的多様性の評価	日本鳥学会 2024 年度大会	東京	2024/09
11	祝前博明	日本の畜産研究は, 世界に冠たる和牛生産をいかに実現したのか: 育種改良における遺伝的評価の進歩	日本畜産学会第 132 回大会 (公開シンポジウム)	京都	2024/09
12	新田将之, 伊藤海音	天水を利用した伝統的な農業水利システムの継承に向けた実践的課題	環境科学会	東京	2024/09
13	永田尚志	佐渡におけるトキの再導入プログラムの現状と今後の展望	カビ毒研究連絡会	佐渡	2024/09
14	豊田光世	家庭科教育に「子どもの哲学」を活かす	家庭科教育研究所第 9 回勉強会	オンライン	2024/10
15	安東宏徳	佐渡島沿岸域における温暖化: 佐渡臨海での定点観測データから	第 3 回新潟大学・金沢大学・島根大学環境シンポジウム「日本海における地球温暖化: 海洋環境と生物への影響」	オンライン	2024/11
16	大森紹仁	佐渡島沿岸域における海洋環境と海洋生物相の変遷	第 3 回新潟大学・金沢大学・島根大学環境シンポジウム「日本海における地球温暖化: 海洋環境と生物への影響」	オンライン	2024/11
17	川坂健人	異なる底質におけるキュウセンの種間摂餌連合	日本動物行動学会 第 43 回大会	山梨	2024/11
18	小林幸平, 阿部晴恵	都市公園におけるシマヘビ <i>Elaphe quadrivirgata</i> の生活史: 標識再捕獲法を用いた 5 年間の成長軌跡と行動圏	日本爬虫両棲類学会 第 63 回大会	姫路	2024/11
19	坂田美樹, 大森紹仁	ニッポンウミシダにおける光受容関連遺伝子の発現解析	第 20 回棘皮動物研究集会	新潟	2024/12
20	長部有沙, 大森紹仁	ウミシダにおける間充織細胞の発生と分化に関する遺伝子の探索	第 20 回棘皮動物研究集会	新潟	2024/12
21	飛田峻馬, 大森紹仁	佐渡島におけるウミシダ類の共生生物相	第 20 回棘皮動物研究集会	新潟	2024/12
22	堀井紘大, 大森紹仁	日本近海産 <i>Anneissia</i> 属ウミシダ 2 種の分類再検討	第 20 回棘皮動物研究集会	新潟	2024/12
23	鶴ヶ谷柊子, 大森紹仁, 幸塚久典	ニッポンウミシダ <i>Anneissia japonica</i> の色彩パターンの遺伝と成長に伴う色彩の変化	第 20 回棘皮動物研究集会	新潟	2024/12
24	熱方悠人, 阿部晴恵	伊豆諸島集団におけるツリガネニンジンの訪花昆虫相: 本州集団との比較と花上捕食者の影響	2024 年度日本生態学会中部地区会	三重	2024/12

	発表者名	タイトル	学会名	会場	年月
25	豊田光世, 村川友美, 西田健人, 廣林花音, 杉田遼河, 島谷幸宏	JET 水車を使ったセルフビルド型小水力発電の試み：佐渡島歌見田の事例	グリーンインフラ・ネットワーク・ジャパン 2025	東京	2025/01
26	豊田光世, 笠井貴弘, 轡田正幸, 和田浩樹, 水野恵理子, 角茉莉那	佐渡島自然共生ラボを基盤とした産官学民共創事業の展開	グリーンインフラ・ネットワーク・ジャパン 2025	東京	2025/01
27	阿部晴恵, 水澤玲子, 安藤温子, 岡本卓, 平岩将良	日本から発信する島嶼生物学 6 島から本土への再移入：世界の動向と日本の事例	第 72 回日本生態学会自由集会	札幌	2025/03
28	河崎健太郎, 鈴木一輝, 阿部晴恵	佐渡島大倉川における流程に沿った流下物と水生昆虫相の季節変化	第 72 回日本生態学会一般講演	札幌	2025/03
29	崎尾均, 阿部晴恵, 川西基博	風と水を味方につけた屋久島のサツキ	第 72 回日本生態学会一般講演	札幌	2025/03
30	多田民生, 蕪木史弦, 田口裕哉, 高橋大樹, 樋口裕美子, 陶山佳久, 阿部晴恵	佐渡島と本州におけるカタクリの形態と遺伝的分化	第 72 回日本生態学会一般講演	札幌	2025/03
31	渡辺晃史, 田口裕哉, 高橋大樹, 陶山佳久, 阿部晴恵	佐渡島と本土間におけるクロサンショウウオの系統地理解析	第 72 回日本生態学会一般講演	札幌	2025/03
32	熱方悠人, 岡崎純子, 水澤玲子, 阿部晴恵	ツリガネニンジンの送粉者に及ぼす影響：送粉者相, 開花期, 島と本土間の比較	第 72 回日本生態学会一般講演	札幌	2025/03
33	蕪木史弦, 松倉君子, 古郡憲洋, 崎尾均, 本間航介, 梶本卓也, 阿部晴恵	新潟大学佐渡演習林における野外実習の心理的効果	第 72 回日本生態学会大会	札幌	2025/03
34	P. Chowdhury, M. Iida	Phytoplankton and zooplankton community composition along western coast of Sado Island, Sea of Japan: Insight from seasonality	第 72 回日本生態学会大会	札幌	2025/03
35	小早川莉穂, 飯田 碧	佐渡島の河川におけるエビ類の分布と生息環境	第 72 回日本生態学会大会	札幌	2025/03
36	漆原理心, 高津邦夫	食えないほど大きく成長した被食者に対する捕食者の非消費型効果	第 72 回日本生態学会大会	札幌	2025/03

	発表者名	タイトル	学会名	会場	年月
37	宮崎悠聡, 本田和輝, 鈴木一輝, 本間航介	環境 DNA の起源としての花粉・植物遺体の時空間的散布パターン	第 72 回日本生態学会大会	札幌	2025/03
38	岡田柚佳, 紙谷智彦, 梶本卓也	佐渡島のスギ天然林の動態に及ぼす攪乱イベントの検出	第 136 回日本森林学会大会	札幌	2025/03
39	石原 奏, 本間航介	潜伏芽と伐採時期がクリの萌芽に与える影響	第 136 回日本森林学会大会	札幌	2025/03
40	酒井省吾, 本間航介	ブナ科常緑樹における萌芽と潜伏芽の関係	第 136 回日本森林学会大会	札幌	2025/03
41	室谷楓香, 小林 元, 飯尾淳弘, 本間航介, 戸丸信弘, 後藤 晋, 津村義彦	ダケカンバ産地試験地における萌芽特性と種子採取地の林分構造	第 136 回日本森林学会大会	札幌	2025/03
42	高橋大樹, 長澤耕樹, 大井・東馬哲雄, Li Pan, 伊東拓朗, 阿部晴恵, 陶山佳久	なぜウマノスズクサは日本で結実しないのか	日本植物分類学会第 24 回大会	高知	2025/03
43	阪口翔太, 長澤耕樹, 増田和俊, 沢和浩, 山下由美, 堀江健二, 廣田峻, 陶山佳久, 高橋大樹, 倉田正観, 坪井勇人, 坂田ゆず, 阿部晴恵, 渡辺洋一	白い花を咲かせるシラネアオイの遺存固有系統	日本植物分類学会第 24 回大会	高知	2025/03
44	豊田光世	問いからはじめて対話で深める家庭科の学習	日本家庭科教育学会 2024 年度セミナー	東京	2025/03

【研究集会等の開催】

- ・ 令和 6 年度第 3 回屋久島研究講座刀流で生きるサツキの生存戦略 2024/11 (崎尾均・阿部晴恵ほか) (森)
- ・ 第 20 回棘皮動物研究集会 2024/12 (大森紹仁ほか) (海)
- ・ 第 72 回日本生態学会自由集会セッション企画「日本から発信する島嶼生物学 6 : 島から本土への再移入」 2025/3 (阿部晴恵ほか) (森)
- ・ 2025 International camellia congress, Oral and poster presentation 実行委員, 2025/03 (阿部晴恵ほか) (森)
- ・ 日本学術会議公開シンポジウム「多世代・多分野交流による環境・SDGs 教育会議～環境問題に関心のない人をどのように巻き込んでいくか?」 2025/03 (豊田光世ほか) (里・CD)

【受賞】

- ・ 安東宏徳. 日本比較内分泌学会 小林賞, 産卵回遊の神経内分泌制御の分子機構に関する研究
- ・ H. Nakayama, R. Takada, T. Miyake, K. Miyake, T. Nirei, H. Sakio. Floral deception in dioecious Actinidia polygama (Actinidiaceae) revealed by differential nitrogen investment in male organs. Plant Species Biology Best Paper Award 2024

3-2 研究費

課題名	実施期間	資金制度名	氏名（代表・分担）
科学研究費補助金		区分	
スズメダイ類をモデルとした社会認知研究	2024–2028年度	若手研究	川坂健人（代表）
注目されないけど、実は日本海離島がすごい！？生物進化における古くて近い島の役割	2024–2027年度	基盤研究（B）	阿部晴恵（代表）
湿地ビオトープの形状の違いは水生生物群集の存在様式を決定する要因となり得るか？	2024–2026年度	若手研究	古郡憲洋（代表）
次世代型地域資源管理システムの意思決定支援手法の構築：継承と連携に着目して	2024–2027年度	基盤研究（B）	新田将之（分担）
水環境整備の先進地域間比較による中長期的な担い手育成方法の解明	2023–2026年度	若手研究	新田将之（代表）
異なる自然攪乱に適応して溪流と山頂に分布するサツキの生存戦略	2023–2025年度	基盤研究（C）	崎尾 均（代表） 阿部晴恵（分担）
魚類の社会的知性の基盤と神経基盤の解明：生態との関連性から探る魚類の高次認知	2023–2025年度	学術変革領域研究（B）	川坂健人（分担）
X線CTを用いた樹木萌芽生成プロセスの解明と薪炭林施業への応用	2022–2026年度	基盤研究（C）	本間航介（代表）
島嶼域の水期遺存植生をモデルとした温暖化による森林植生の維持・成立機構	2022–2025年度	基盤研究（C）	崎尾 均（分担）
火災後の永久凍土面の沈下と再上昇で北方林の炭素蓄積量はどのように変化するか	2022–2024年度	基盤研究（B）	梶本卓也（分担）
島嶼環境に直面した広域分布種の送粉生態型分化と侵入定着過程の解明	2021–2024年度	基盤研究（C）	阿部晴恵（分担）
絶滅危惧種の「利用と保全」の順応的ガバナンス構築に向けた学際的研究	2021–2024年度	基盤研究（B）	豊田光世（分担）
極端気象がもたらす風水害の頻発化・激甚化で変わる地域社会の持続可能性評価	2021–2024年度	挑戦的研究（萌芽）	豊田光世（分担）
その他公的競争的資金			
豊かな佐渡島の海を通してインド・太平洋の海洋生物多様性を学ぶハイブリッド型フィールド研修	2024 年度	国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）	川坂健人（代表）

受託研究			
地域スケールの生物多様性と社会経済的要因からなる統合評価・シナリオ分析と社会適用	2023-2027年度	環境研究総合推進費・戦略的研究開発課題	豊田光世（分担）
民間財団等の競争的資金			
高水温による海洋回遊魚の生殖抑制機構の解明：ストレスホルモンの動態と作用	2024-2025年度	公益信託エスピック地球環境研究・技術基金	安東宏徳（代表）
里山水域ネットワークの多面的機能保全に資する分散型マネジメントの社会実装研究	2023-2024年度	公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団国内研究助成	新田将之（代表）
小規模ため池の多機能性と固有性を考慮した保全施策の意思決定支援手法	2023-2024年度	公益財団法人農業農村工学会研究グループ助成	新田将之（代表）
多様な河川環境での稀少な甲殻類の生息環境の理解と保全への提言	2023-2024年度	公益財団法人日本生命財団環境問題研究助成	飯田 碧（代表）
越冬幼生の出現と産卵タイミングの関係：佐渡固有種「サドガエル」の越冬戦略の多様性をもたらす要因の探索	2024-2025年度	公益財団法人内田エネルギー科学振興財団試験研究費助成	高津邦夫（代表）
Nanopore シーケンサーを用いた日本近海産 <i>Anneissia</i> 属ウミシダ類の分類学・系統地理学的研究	2024-2025年度	公益財団法人内田エネルギー科学振興財団試験研究費助成	大森紹仁（代表）
佐渡島のカエル類における森里の回廊としての河川役割	2024-2025年度	公益財団法人河川財団	阿部晴恵（代表）
絶滅危惧水生生物が生息する湧水小河川の環境保全に関する市民科学的研究—管理と運営に着目して	2024-2025年度	公益財団法人河川財団	新田将之（代表）
人間活動が草原性植物のポリネーターシフトに与える影響_伊豆諸島自然草原と伊豆半島反自然草地との比較	2024 年度	公益財団法人市村清新技術財団	阿部晴恵（代表）
越冬環境の泥と水の深さがサドガエル幼生の越冬成功と翌春以降の成長・発生に与える影響：江やビオトープを重視した保全対策の改善に向けて	2023-2024年度	公益信託富士フィルム・グリーンファンダ	高津邦夫（代表）
寄附金その他外部資金			
寄附研究部門「里山共生研究部門」	2024-2028年度	公益財団法人上廣倫理財団	豊田光世
共同研究「佐渡島自然共生ラボの運営を通じた産官学民連携の課題解決手法に関する研究」	2023-2024年度（継続）	株式会社NTTデータ	豊田光世
環境省生物多様性モニタリング 1000 森林系コアサイト	2008-2024年度（継続）	一般財団法人自然環境研究センター	崎尾 均（サイト代表）
環境省生物多様性モニタリング 1000 森林系コアサイト	2004-2024年度（継続）	一般財団法人自然環境研究センター	本間航介（サイト代表）

島嶼と大陸の河川における通し回遊 性魚類の回遊生態	2024 年度	東京大学大気海 洋研究所 共同 利用研究	飯田 碧
------------------------------	---------	----------------------------	------

4 教育活動

4-1 学内の教育

対象	講義名	開講時期	担当領域 (副担当)
学部			
全学部			
全学年	地域災害環境システム学入門	第 2 ターム	里
	基礎雪氷学	第 2 ターム	森
	朱鷺・自然再生フィールドワーク	7/6-7, 7/13-14, 7/27-28, 8/22-23	里
	環境学実習 (副専攻)	8/19-21, 11/14-16	森
	森・里・海フィールド実習	9/9-14	森・里・海
	佐渡自然共生国際実習	9/21-25	森・里・海
	地域災害環境システム学演習	第 3 ターム	里
	私のローカルキャリア論	第 3 ターム	CD
	トキをシンボルとした自然再生	第 3 ターム	森・里
	人文系展開科目 D	第 3・4 ターム	里
	SDGs 入門	第 3・4 ターム	里
	地域を語る	第 3・4 ターム	里
	佐渡学概論：佐渡島の自然と人々の営み	第 4 ターム	森・里・海
1,2,3 年生	環境生物学野外実習 C	3/3-7	海
2 年生	生態系を知る	第 2 ターム	里・森
理・農学部フィールド科学人材育成プログラム 3 年生			
	フィールド安全論	第 1 ターム	森・海
	野生植物生態学	第 1 ターム	森
	里地里山再生学	第 1 ターム	里・(森)
	環境政策論 a	第 1・2 ターム	森
	野生植物生態学実習	第 1・2 ターム	森
	自然再生学実習	8/15-18	里
	フィールドワーカーのためのリスクマネジメント実習	8/26-29, 9/2-5	森
	臨海実習 I	8/19-24	海・(森)
	公開森林実習	通年	森
	環境生物学野外実習 B	通年	海
	希少生物保全学	第 3 ターム	里・(森)
	水圏生態学	第 4 ターム	海
理学部			
理学科 1 年生	理学基礎演習 (フィールド科学人材育成プログラム)	第 2 ターム	海
理学科 2 年生	海洋生物学実験	8/29-31	海
理学科 2 年生・ 農学科 2 年生	系統動物学	7/8-11	海
理学科生物学 プログラム 3 年生	臨海実習 I	8/19-24	海・(森)
新潟大学以外 全学年	臨海実習 II	8/19-24, 9/9-14, 9/21-25, 3/3-7	海

対象	講義名	開講時期	担当領域 (副担当)
	生物学総合演習	第3・4ターム	海
理学科生物学 プログラム3年生	動物生理学 III	第3ターム	海
理学科生物学 プログラム4年生	内分泌学演習	通年	海
	課題研究 I (生物学)	通年	海
農学部			
農学科1年生	新潟の農林業	第3ターム	森
	農学入門 I, II	第1ターム	森
農学科2年生	基礎農林学実習	5/18-19, 6/8-9, 7/6-7	森
農学科3年生	生態系管理演習及び実習	第3・4ターム	森
	持続可能な森林管理演習及び実習	第1・2ターム	森
	生態モデリング入門	第4ターム	里
2,3年生	森林再生学	第3ターム	森
大学院			
自然科学研究科			
修士課程	森林生態学特論	通年	森
	野生植物生態学特論	通年	森
	島嶼生態学特論	通年	森
	希少生物学特論	通年	里
	先端臨海実習	8/19-24	海
	環境ガバナンス概論	第1学期	森・里
	プロジェクト研究特別概説	第1学期	里
	流域環境思想論	第1学期	里
	神経内分泌学	第2学期	海
	自然再生学特論	第2学期	里
博士課程	森林生態系管理学 II	通年	森
	里地里山保全学詳論	通年	里
	島嶼生物地理学	通年	森
	環境ファシリテーター論及び演習	第1学期	森・里
	環境保全の合意形成論	第1学期	里
	適応統合生物学	第2学期	海
	保全生物学特論 II	第2学期	里

4-2 佐渡3施設で実施した他大学等の教育

対象	講義名	開講時期	担当領域
日本自然環境専門学校	佐渡森林生態実地研修	5/10-11	森
東邦大学	野外生態学実習I	5/27-30	森
新潟農業・バイオ専門学校	樹木学I	6/11-14	森
放送大学	海洋生物の多様性と適応進化	7/2-4	海
日本大学	造林学実習	7/29-8/1	森
大妻女子大学	生物環境保全学ゼミ 臨海実習	8/5-8	海
東京都立大学	生態学野外実習	8/6-11	森
浦和大学	自然科学・理科教育ゼミ 臨海実習	8/9-11	海
国際ペットワールド専門学校	佐渡臨海実習	8/15-16	海
公開臨海実習	海洋生物多様性実習	8/19-24	海・(森)
全国11国公立大学			
東京医科歯科大学	S・海洋生物学実習	8/26-28	海
信州大学ほか	フィールドワーカーのためのリス	8/26-29,	森

対象	講義名	開講時期	担当領域
	クマネジメ入門実習	9/2-5	
大阪産業大学	生態学特別演習 2	9/1-3	海
慶應義塾大学	生物学実験集中	9/4-8	海
公開臨海実習 全国 14 国私立大学	森里海をつなぐ野外生態学実習	9/9-14	森・里・海
大阪産業大学	生態学特別演習 1	9/9-11	森
バングラデシュ農業大学 (バングラデシュ), チャットグラム獣医動物科学大学 (バングラデシュ), コーチン科学技術大学 (インド), モナッシュ大学マレーシア校 (マレーシア), ハノイ国立教育大学 (ベトナム), 香港大学 (中国)	さくらサイエンス招へいプログラム “International Marine Biology Course 2024”	9/21-25	海
公開臨海実習 全国 5 国立大学	International Marine Biology Course	9/21-25	海
大阪教育大学	野外植物実習	9/24-27	森
石川県立大学	動物育種学	9/24-27	里
新潟大学ほか	島嶼生態学特論実習	10/1-3	森
筑波大学	野生生物管理実習	10/7-11	森
新潟大学ほか	森林生態学特論実習	10/15-17	森
新潟農業・バイオ専門学校	樹木学II	10/22-25	森
公開臨海実習 全国 10 国私立大学	動物発生／行動学臨海実習	3/3-7	海

4-3 佐渡 3 施設で実施したその他の教育

対象	講義名	開講時期	担当領域／実施者
県内小学生	BSN ウェーブ 海と日本プロジェクト	7/24-25	海・里
佐渡市小学生	佐渡市 こども環境学習会	7/27	海
県内外高校生等	新潟大学公開講座 高校生対象公開臨海実習	7/30-8/2	海

4-4 施設利用状況

演習林	他大学		学内		一般・小中高生	計
	実習	実習以外	実習	実習以外 所属学生含む	実習・研修等 エコツアー除く	
利用人数 (延べ)	623	103	578	1,057	14	2,375

朱鷺・自然再生学研究施設 (キセン城)	実習活動 (延べ人数)	研究活動 (延べ日数)	その他 (延べ日数)
	53	48	234

臨海実験所	他大学			学内		一般 小中学校	計
	フィールド利用型 実習	公開臨 海実習	実習以外	実習	実習以外 所属学生含む	実習・研修 等	
利用人数 (延べ)	572	279	107	357	2,579	206	4,100

5 地域連携と社会活動

5-1 佐渡市との連携による事業

- 1) 佐渡島自然共生ラボの企画・運営（佐渡市・NTT データ株式会社・新潟大学共同事業）
2022 年度開設したリビングラボを舞台に、森里海の資源活用やエシカル生産・消費の拡大など自然共生社会の実現に向けたさまざまなプロジェクトを産官学民連携で実施した。
- 2) 佐渡ローカルイノベーションプログラムのフォローアップによる地域プロジェクトの展開支援（佐渡市・NTT 東日本・NTT DX パートナー・新潟大学共同事業）
2023 年度に実施した佐渡ローカルイノベーションプログラムでの学生提案プロジェクトを実装するための支援を行った。

5-2 新潟県との連携による事業

- 1) 新潟県佐渡地域振興局農林水産振興部との連携で、サドガエルの生息地における圃場整備事業の環境配慮計画や市民参加の学習機会の検討ならびに運営支援を行った。

5-3 その他の地域連携・社会活動

内容		実施日	会場	担当領域／実施者
小中高校の教育支援				
佐渡市立河崎小学校	久知川の環境調査学習	6/20	佐渡市内	高津邦夫
長野県立屋代高等学校・附属中学校	SSH オンライン講義 トキの野生絶滅と再導入	10/10	オンライン	永田尚志
新潟県立羽茂高等学校	「地域人材による対話の場づくり」講師	10/23	佐渡市内	渡辺智美
新潟大学附属新潟中学校	p4c を活用した道徳科の授業づくり	10/25	新潟中学校	豊田光世
新潟大学理学部「にいがた“知の革新” STELLA プログラム」	佐渡島における自然と人の共生	1/11	オンライン	豊田光世
学校教員向け研修				
佐渡市立理科教育センター	サドガエル等佐渡固有生物生態研修会	5/31	トキ交流会館	高津邦夫
佐渡市立赤泊小学校	校内研究会講師	6/7	赤泊小学校	豊田光世
佐渡市立理科教育センター	磯の生物の生態研修会	7/29	臨海実験所	海
胎内市立築地小学校	p4c 研修会講師	8/1	築地小学校	豊田光世
佐渡市立理科教育センター	佐渡の里山研修会	8/7	トキ交流会館	古郡憲洋
アゴラ p4c しろいし	夏季研修会「p4c の考え方と方法論」	8/24	白石市立白石第一小学校	豊田光世
佐渡市立赤泊小学校	文部科学省委託事業・道徳教育研究発表会	9/20	赤泊小学校	豊田光世
胎内市立築地小学校	p4c 研修会講師	11/12-13	築地小学校	豊田光世
佐渡市立理科教育センター	加茂湖再生等環境教育研修会	11/5	加茂湖	豊田光世
佐渡市立理科教育センター	トキの生態研修会	11/14	トキ交流会館	永田尚志
福井県立若狭高等学校	対話研修会 インタープリター	12/16	若狭高等学校	豊田光世
佐渡市立赤泊小学校	校内研究会講師	2/21	赤泊小学校	豊田光世

市民向けセミナー・フォーラム等					
第16回サイエンスカフェ	佐渡島で生きる高山の植物	4/23	おに Cafe	崎尾 均	
第1回野外ツアー	佐渡島アオネバ春の花	4/29	アオネバ	崎尾 均	
第17回サイエンスカフェ	植物の花の不思議	5/15	おに Cafe	崎尾 均	
第2回野外ツアー	佐渡島妙見山のブナ林	5/16	妙見山	崎尾 均	
第12回茅葺きフォーラム	ヨシの保全と活用で広げる加茂湖再生の輪	5/25	アミューズメント佐渡	豊田光世	
天野尚写真展オープニングセレモニー・巨大杉でつながる島々	佐渡島の自然と天然杉	6/15	アミューズメント佐渡	崎尾 均	
第3回野外ツアー	石名天然スギと金剛山登山	6/16	金剛山	崎尾 均	
佐渡ライオンズクラブ講話	佐渡島が誇る自然	6/18	八幡館	崎尾 均	
里山探検ガイドフォローアップ研修/ジオパークガイドフォローアップ研修	里山の生物多様性と持続可能性～里山とはいったい何なのか？～	7/15	トキ交流会館	古郡憲洋	
世界仮想旅行社	自然首都・只見の自然	8/9	オンライン	崎尾 均	
新潟県・佐渡林業実践者大学林政セミナー講演	佐渡島の森林と林業～持続的な森林管理に向けて	8/29	トキ交流会館	梶本卓也	
里山探検ガイドフォローアップ研修/ジオパークガイドフォローアップ研修	捕食者として生物多様性を支えるヘビの生態研修	8/31	トキ交流会館	澤田聖人 古郡憲洋	
佐渡市理科教育センター	子どものための科学祭り	9/16	アミューズメント佐渡	海	
第18回サイエンスカフェ	世界遺産佐渡金山を支えた森林	9/26	おに Cafe	崎尾 均	
里山探検ガイドフォローアップ研修/ジオパークガイドフォローアップ研修	森林生態系を支える“きのこ”の多様性を体験しよう	9/28	トキ交流会館	松倉君子 古郡憲洋	
第16回いい川・いい川づくりワークショップ in 白山手取川	全体選考コメンテーター	9/28-29	金城大学	豊田光世	
新潟大学 ELSI センター・サイエンスカフェ（第4回）	自然に潜む妖怪から読み解く共生の思想	10/9	異人池図書館 喫茶店	豊田光世	
第19回サイエンスカフェ	「サドモグラは謎モグラ？ ―世界で佐渡だけの動物」	10/21	おに Cafe	崎尾 均	
令和6年度トキガイド養成講座第3回	田んぼやビオトープの生き物について	10/30	トキ交流会館	古郡憲洋	
世界仮想旅行社	只見の暮らしに根づく植物	11/20	オンライン	崎尾 均	
智頭の山人塾 森林と樹木のサイエンスシリーズ	外来樹種ハリエンジュの生態と管理	11/21	オンライン	崎尾 均	
佐渡ことば・こころの教室	学習会・パネリスト	11/23	佐渡市内	渡辺智美	
宮城教育大学・公益財団法人上廣倫理財団	探究の対話 (p4c) 研究会	12/14	オンライン	豊田光世	

(株) リバー・ヴィレッジ	JET 水車おひろめ会 歌見田事例紹介	1/8	オンライン	豊田光世
トキガイド講習会	トキを 17 年研究して わかったこと、わから ないこと	1/14	トキ交流会館	永田尚志
第 20 回サイエンスカフェ	ミシシッピ川の湿地 林—ハリケーンの影響—	1/23	おに Cafe	崎尾 均
佐渡市トキファンクラブ	子供のためのなんでも トキの相談室	2/1	トキ交流会館 +オンライン	永田尚志
第 21 回サイエンスカフェ	植物たちの Before After	2/13	おに Cafe	崎尾 均
一般社団法人佐渡地域医療・介護・福祉提供体制協議会 ゆるつな cafe	よりよいコミュニティづくりのための合 意形成	2/18	オンライン	豊田光世
のと里山里海カフェ	地域の未来を描く～ 佐渡と能登の交流を 通して	2/26	石川県立図書館	豊田光世
佐渡林業実践者大学講座第 45 期修了式及び第 46 期開 講式記念講演会	佐渡島に再導入され たトキの生態～森林 との関わり～	3/6	トキ交流会館	永田尚志
佐渡市の種火の会	種火の会・講師	3/25	佐渡市内	渡辺智美

5-4 シンポジウム・セミナー等の開催

名称	開催日	会場
里山共生研究部門開設記念シンポジウム「共に考える学びの未来」	4/20	あいぽーと佐渡
多様な学びセミナー第 1 回～第 5 回	6/30, 10/10, 11/14, 12/19, 3/5	じぶんのキャン パス Lios・オン ライン
トキの里探検隊フォローアップ研修	7/15, 8/31, 9/28	トキ交流会館ほ か
ジオパークガイドフォローアップ研修	7/15, 8/31, 9/28	トキ交流会館ほ か
地域で子どもたちを育てよう「昔の子育て 今の子育て おはなし会」	9/29, 10/20, 11/30	生椿集落, よし いっこの森, 八 幡集落センター
静岡県立大学グローバル地域センター・新潟大学合同シンポジウム「地震・津波のメカニズムを学ぶ」	10/20	あいぽーと 佐 渡・オンライン
第 3 回新潟大学・金沢大学・島根大学環境シンポジウム「日本海における地球温暖化：海洋環境と生物への影響」	11/22	オンライン
自然共生のみらい会議 2024 自然共生をめぐる 50 の試み	11/24	あいぽーと 佐 渡・オンライン
シンポジウム「海の未来を語る～佐渡と輪島のダイアログ」	12/7	あいぽーと 佐 渡・オンライン
佐渡 p4c おけさ 2025 「わたしを p4c で発酵させると？」	2/22	尾畑酒造学校蔵
新潟大学佐渡自然共生科学センター学生発表会	3/1	トキ交流会館
新潟大学佐渡自然共生科学センターシンポジウム 2025 (テーマ：野生 鳥類の再導入)	3/8	トキ交流会館・ オンライン

6 資料

6-1 報道関係

- 1) NHK 新潟ニュース 610 「トキのヒナを捕獲 57年前の貴重映像」, 2024/4/10 (永田尚志) (里)
- 2) 新潟日報, 新大・自然共生科学センター里山共生研究部門を新設～子どもの教育支援プログラム構築へ, 2024/4/26 (共生)
- 3) フジテレビ, 「世界の何だコレ!? ミステリー」, 2024/5/1 (生物解説) (大森紹仁) (海)
- 4) サドテレビ, 佐渡自然共生科学センターに新部門 記念シンポジウム, 2024/5/1 (共生)
- 5) NHK 新潟ニュース 610 「新潟大学がウミネコの生態調査」, 2024/6/24 (永田尚志) (里)
- 6) 新潟日報, 「多様性の海 多国籍で実感」, 2024/10/1 (海)
- 7) 読売新聞, 「水中点描 佐渡編『高い透明度 多彩な青』」, 2024/10/03 (安東宏徳) (海)
- 8) ARTE フランス・ドイツ共同国営チャンネル取材, 「富士山の笠雲」 2024/8/10 (崎尾 均) (森)
- 9) NST 新潟総合テレビ, 昔の子育てどう生かせるか, 2024/9/30 (里山共生研究部門)
- 10) 人民日報「世界野生動物保護史上的成功范例」, 2024/11/28 (永田尚志) (里)
- 11) 健康情報誌「主治医」, 山岡傳一郎氏による部門の活動, p4c, 島内に自生する薬草の紹介, 2024/12/1 (共生)
- 12) 佐渡テレビ, 「輪島からゲスト招き海の未来を語るシンポジウム」, 2024/12/09 (豊田光世) (CD)
- 13) 日刊水産経済新聞「海藻で交流会：能登、佐渡で海女が親睦」, 2024/12/26 (豊田光世) (CD)
- 14) 新潟日報, 準絶滅危惧種のミミズク「オオコノハズク」を守れ！佐渡市でモニタリング作戦, 2024/12/28 (Jasmine Black) (共生)
- 15) 新潟日報「サイエンスカフェ 米湿地の植物 危機学ぶ」, 2025/1/25 (崎尾 均) (森)
- 16) TeNY ニュース「佐渡市でトキの疑問に答える相談室 新潟大学の教授が講師」, 2025/2/2 (永田尚志) (里)
- 17) 新潟日報「トキ、何でも聞いて、子どもの疑問、専門家解説 佐渡」, 2025/2/3 (永田尚志) (里)
- 18) NHK 新潟ニュース 610 「トキ、来年本州で初放鳥へ」, 2025/2/14 (永田尚志) (里)
- 19) NHK ニュースウォッチ 9「トキ、来年6月ごろに能登地域で放鳥へ 本州では初めて」, 2025/2/14 コメント (永田尚志) (里)
- 20) NHK チコちゃんに叱られる！「ツバキが冬に咲くのはなぜ？」 2025/2/21 監修 (阿部晴恵) (森)
- 21) サドテレビ, 体験ツアーで佐渡の子どもたちが仕事学ぶ, 2025/3/7 (斎藤未沙) (共生)
- 22) NST 新潟総合テレビ, 自然の中で“農業の魅力”学ぶツアー！子どもたちが“野菜の収穫”や“竹を使った炊飯”に挑戦, 2025/3/10 (斎藤未沙) (共生)
- 23) 新潟日報, 小中学生が農業体験 将来の仕事魅力いっぱい, 2025/3/14 (斎藤未沙) (共生)

6-2 構成員

センター長/副センター長

永田尚志・センター長 理学博士

専門分野：鳥類生態学, 保全生物学

研究テーマ：トキの再導入生物学に関する研究, 希少鳥類の保全, 鳥類の繁殖戦略

所属学会：日本生態学会, 日本動物行動学会, 個体群生態学会, 日本鳥学会 (代議員), 鳥類標識協会, American Ornithological Society, Wilson Ornithological Society, Waterbird Society, Association of Field Ornithologists, International Ornithologist Union

外部委員：河川学術研究会委員, 河川・ダム湖水辺の国勢調査鳥類スクリーニング委員会委員 (以上, 国交省関係), トキ野生復帰検討会委員, 環境省レッドリスト鳥類分科会委員, モニタリングサイト 1000 (森林・草原調査) コア・準コアサイト検討会委員, モニタリングサイト 1000 森林・草原調査解析ワーキンググループ委員, モニタリングサイト 1000 陸生鳥類検討会委員, モニタリングサイト 1000 第4期とりまとめ概要版パンフレット検討会委員, 鳥類標識調査検討会委員, ヤンバルクイナ保護増殖事業ワーキンググループ委員 (以上, 環境省関係), 佐渡市環境審議会委員, 佐渡ジオパーク推進協議会委員, 佐渡ジオパーク推進協議会調査・研究部会部員, 人・トキの共生の島づくり協議会委員, 佐渡市環境アドバイザー (以上, 佐渡市関係), IUCN SIS the International Glossy Ibis Network (IGIN) 委員

安東宏徳・副センター長 理学博士

専門分野：生殖内分泌学，神経内分泌学

研究テーマ：産卵回遊魚の海洋環境適応の脳内メカニズム

所属学会：日本動物学会，日本比較内分泌学会，日本下垂体研究会（評議委員），日本水産学会，

The Asia and Oceania Society for Comparative, Endocrinology (AOSCE) (Councilmember)

外部委員：新潟県原子力発電所周辺環境監視評価会議委員，新潟県海岸保全基本計画検討委員会委員，

佐渡海区漁業調整委員会委員，佐渡ジオパーク推進協議会調査・研究部会部員，金沢大学環日本

海域環境研究センター教育関係共同利用拠点運営委員会委員，佐渡市環境アドバイザー

学術雑誌編集委員：Neuroendocrinology (Associate Editor), Fish Physiology and Biochemistry (Editorial Board), Frontiers in Experimental Endocrinology (Editorial Board)

外部講師：放送大学非常勤講師

森林領域／演習林

梶本卓也・領域長・教授 博士（農学）

専門分野：森林生態学，造林学

研究テーマ：樹木の成長機構，森林の更新過程，人工林の育成管理技術

所属学会：日本森林学会（プログラム編成担当理事），東北森林学会

外部委員：佐渡市環境アドバイザー，岩手県久慈市白樺再生事業アドバイザー，農林水産省委託プロジェクト研究（みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業）「日本全国の林地の林業採算性マトリクス評価技術の開発」運営委員，令和6年度林野庁「森林整備保全事業推進調査」検討委員会委員

学術雑誌編集委員：Trees-structure & function (Editorial Board)

本間航介・准教授 博士（理学）

専門分野：森林生態学，里山生態学，保全生態学

研究テーマ：高ストレス・高攪乱環境下における木本植物の更新戦略，里山複合景観が有する生態機能の定量的解明

所属学会：日本生態学会，種生物学会，日本植生史学会

外部委員：環境省生物多様性モニタリング 1000 森林系コアサイト検討委員，環境省生物多様性モニタリング 1000 森林系一般サイト検討委員，環境省・佐渡市 人・トキ共生の島づくり協議会副会长，新潟県トキ野生復帰アドバイザー，佐渡市環境アドバイザー，JaLTER（日本長期生態研究ネットワーク）佐渡サイト代表，静岡大学農学部附属地域フィールド科学教育研究センター演習林教育関係共同利用拠点委員会委員

阿部晴恵・准教授 博士（理学）

専門分野：島嶼生態学，保全遺伝学，進化学

研究テーマ：島嶼における生物の進化，ツバキ属の種分化，生物間相互作用

所属学会：日本生態学会，種生物学会，日本ツバキ協会，国際ツバキ協会

外部委員：尾瀬保護財団理事，新潟県環境影響評価審査会委員，京大大学生態学研究センター運営委員会及び共同利用運営委員会，「東京都の保護上重要な野生生物種（伊豆諸島）」改定に向けた専門部会委員，2026Island Biology Japan 実行委員，日本生態学会自然保護委員

外部講師：佐渡市環境アドバイザー，大阪教育大学非常勤講師

蕪木史弦・特任助手 修士（農学）

専門分野：保全生態学，保全遺伝学，地生態学

研究テーマ：希少動植物の適切な保全管理を目標とした生態・遺伝情報の解明，環境教育の心理的効果の推定

所属学会：日本生態学会，日本植物分類学会

崎尾 均・名誉教授（フェロー） 博士（理学）

専門分野：森林生態学，水辺林の生態と保全，樹木の生活史

研究テーマ：水辺の樹木の生活史戦略

所属学会：日本生態学会，日本森林学会，日本植物学会，植生学会，屋久島学ソサイエティ，IAVS

外部委員：植生学会企画委員，日本 MAB 計画委員会委員，只見町ユネスコエコパーク支援委員会委員長，只見町ブナセンター紀要編集委員，只見町沼ノ平総合学術調査団調査団長，佐渡ジオパーク推進協議会調査研究部会委員，佐渡文化振興ビジョン・アクションプラン検討委員会，佐渡市博物館協議会委員，佐渡市博物館ビジョン検討部会委員，佐渡市環境アドバイザー
外部講師：日本自然環境専門学校非常勤講師

本間大也・技術職員

濱田栄一・技術職員

岡田好明・技能補佐員

長家賢二・技能補佐員（7 月 16 日着任，12 月 15 日退職）

濱辺英代・事務補佐員

熱方悠人・自然科学研究科修士課程 2 年

研究テーマ：島嶼性ツリガネニンジン種のポリネーターシフトを駆動する生物間相互作用の解明

河崎健太郎・自然科学研究科修士課程 2 年

研究テーマ：佐渡島大倉川における流程に沿った流下物と水生昆虫相の季節変化

小林幸平・自然科学研究科修士課程 2 年

研究テーマ：都市環境と人間の認知的反応がヘビ類の適応に与える影響

多田民生・自然科学研究科修士課程 2 年

研究テーマ：佐渡島と本州におけるカタクリの形質と遺伝的分化

石原奏・自然科学研究科修士過程 2 年

研究テーマ：クリにおける潜伏芽と萌芽の関係性

杉山莞玖斗・自然科学研究科修士過程 2 年

研究テーマ：スギ天然林における植生パッチと土壌環境が土壌動物群集に及ぼす影響

中村美貴・自然科学研究科修士過程 2 年

研究テーマ：里山林利用放棄後の植生動態

相原美彩・自然科学研究科修士課程 1 年

研究テーマ：佐渡と本土における植物の網羅的な形態比較

岡田柚佳・自然科学研究科修士課程 1 年

研究テーマ：佐渡島のスギ天然林における長期的な動態と攪乱の影響

櫻井千穂・農学部学部 4 年

研究テーマ：送粉者相の違いによるツバキ節の花蜜菌類群集の変化

深井こるり・農学部学部 4 年

研究テーマ：佐渡島平野部に生息するモリアオガエル成体の移動ルートと生息環境の解明

渡辺晃史・農学部学部 4 年

研究テーマ：佐渡島と本土側でのクロサンショウウオの系統地理解析

宮崎悠聡・農学部学部 4 年

研究テーマ：環境 DNA の起源としての花粉・植物遺体の時空間的散布パターン

酒井省吾・農学部学部 4 年

研究テーマ：ブナ科常緑樹における萌芽と潜伏芽の関係

和田風斗・農学部学部 4 年

研究テーマ：地上用 LiDAR センサーを用いた林内積雪環境の精密測定

里山領域／朱鷺・自然再生学研究施設

永田尚志・教授・領域長 理学博士

豊田光世・教授 博士（学術）

専門分野：環境哲学，合意形成学，環境教育，対話教育

研究テーマ：環境共生社会の実現に向けた市民参画プロセスのデザイン

所属学会：日本環境教育学会，日本感性工学会，「野生生物と社会」学会，日本デザイン学会，The International Council of Philosophical Inquiry with Children

外部委員：日本学術会議連携会員（環境学委員会委員，環境学委員会環境思想・環境教育分科会委員長，自然環境分科会委員，フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会地球環境変化の人間側面分科会委員，哲学委員会いのちと心を考える分科会委員），新潟県環境審議会委員，佐渡市世界農業遺産推進会議委員，佐渡市生物多様性佐渡戦略推進委員会社会系ワーキングチーム委員，佐渡市さど未来創造・戦略推進会議委員，佐渡教育コンソーシアム検討委員，佐渡市デジタル化推進検討懇談会委員・座長，佐渡市環境アドバイザー，人・トキ共生の島づくり協議会委員，新潟県立佐渡高等学校学校評議員，佐渡市立行谷小学校学校関係者評価委員，福井県立若狭高等学校マイスターハイスクール推進委員，宮城教育大学上廣アカデミー運営委員，長岡造形大学令和 6 年度大学院修士課程特別研究審査委員会委員

外部講師：東京工業大学リベラルアーツ研究教育院非常勤講師，東京工業大学社会人アカデミー講師，兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科非常勤講師

その他：一般社団法人岩首めぶきラボ理事，一般社団法人潟上未来会議理事，佐渡島加茂湖水系再生研究所運営チームメンバー

高津邦夫・准教授 博士（環境科学）

専門分野：動物生態学

研究テーマ：環境条件に応じた個体の特徴の変化とそれが生物間相互作用に与える影響について

所属学会：個体群生態学会，日本生態学会

新田将之・准教授 博士（農学）（8 月 31 日異動）

専門分野：地域環境工学・計画学

研究テーマ：農村水辺環境の利用管理に関する研究，地域づくりに関する計画論的研究

所属学会：農業農村工学会，農村計画学会，土木学会，応用生態工学会，International Association for Hydro-Environment Engineering and Research

外部委員：農業農村工学会農村計画研究部会代表幹事，比企丘陵農業遺産推進協議会委員

古郡憲洋・特任助教 博士（農学）

専門分野：群集生態学，里山の保全生態学

研究テーマ：里山景観の推移帯が持つ生態学的機能の定量化

所属学会：日本生態学会，日本森林学会，農業農村工学会

外部講師：佐渡市環境アドバイザー

祝前博明・フェロー，本学教育支援員 Ph.D.

専門分野：量的遺伝学，生物統計学，家畜育種学

研究テーマ：和牛の育種改良，トキ個体群の遺伝的多様性，ゲノム評価法

所属学会：日本畜産学会，日本鳥学会

外部委員：（公社）畜産技術協会事業推進委員会委員，（公社）全国和牛登録協会中央審査委員，など

外部講師：石川県立大学非常勤講師

池野達哉・特任専門職員

山口浩司・技術補佐員（6月1日着任）

関口桃野・自然科学研究科修士課程2年

研究テーマ：水産養殖にかかわる「ASC 認証」が生み出す社会的価値の分析

小林利彦・自然科学研究科修士課程2年

研究テーマ：国府川の地域環境史研究

漆原理心・理学部4年

研究テーマ：個体成長に伴って捕食者―被食者相互作用はどう変化するか

清 稜太・農学部4年

研究テーマ：ウミネコ *Larus crassirostris* が選好する水田環境の特性とその利用パターン

佐藤有純・理学部4年

研究テーマ：湧水性農業水路におけるトミヨ属淡水型 *Pungitius sinensis* をシンボルとした魚類の生息環境に関する研究

渡邊比奈太・理学部4年生

研究テーマ：サドガエルをモデルとした圃場整備に伴うミティゲーション手法の検討

赤石澤大貴・理学部4年

研究テーマ：環境保全の市民活動に取り組む人々の動機と障壁に関するインタビュー調査～新潟県佐渡市を事例に～

山岸優太・理学部4年

研究テーマ：自治体 DX における職員の声の分析と課題発見

海洋領域／臨海実験所

安東宏徳・教授・領域長 理学博士

飯田 碧・准教授 博士（農学）（10月30日異動）

専門分野：魚類生態学，水圏生物学

研究テーマ：通し回遊性生物についての生態学的研究，海洋におけるプランクトンの動態

所属学会：日本水産学会，日本魚類学会，日本生態学会，日本動物学会

外部委員：新潟県環境影響評価審査会委員，新潟県洋上風力発電導入研究会環境影響専門部会委員，新潟県環境審議会 環境管理部会副部会長，新潟県環境審議会 水環境部会委員，新潟県加茂湖海水導入施設環境改善効果検討委員会部会長，新潟県上越地方振興局河川水辺の国勢調査アドバイザー，国土交通省北陸地方整備局信濃川水系流域委員会 下流部会委員，国土交通省北陸地方整備局阿賀野川水系流域委員会委員，国土交通省北陸地方整備局阿賀野川水系流域委員会 下流部会委員，国土交通省北陸地方整備局北陸地方ダム等管理フォローアップ委員会委員，国土交通省北陸地方整備局河川水辺の国勢調査アドバイザー，公益財団法人新潟市河川文化財団理事，佐渡市環境アドバイザー，東京大学大気海洋研究所 共同利用外部委員，島根大学生物資源科学部附属生物資源教育研究センター 海洋科学部門隠岐臨海実験所 共同利用運営委員会委員

学術雑誌編集委員：Ecological Research (Editorial Board)

外部講師：放送大学非常勤講師

大森紹仁・助教 博士（理学）

専門分野：進化発生学，系統分類学

研究テーマ：棘皮動物の形態進化と自然史に関する研究

所属学会：日本動物学会，日本発生生物学会，日本海洋教育学会

外部委員：佐渡市環境アドバイザー

外部講師：放送大学非常勤講師，慶應義塾大学非常勤講師

川坂健人・特任助教 博士（理学）

専門分野：動物行動学，行動生態学

研究テーマ：なわばり性魚類における社会行動と社会的認知

所属学会：日本動物行動学会，日本動物心理学会，日本魚類学会，日本生態学会

外部講師：放送大学非常勤講師，慶應義塾大学非常勤講師

下谷豊和・技術専門職員

小杉かおる・技能補佐員

本間 悟・事務補佐員

Chowdhury, Parvez・自然科学研究科博士課程 3 年

研究テーマ：Seasonal Changes of Plankton Communities on Sado Island, Central Part of the Sea of Japan

長部有沙・自然科学研究科博士課程 1 年

研究テーマ：ウミシダにおける間充細胞の発生と分化

長谷川 蓮・自然科学研究科修士課程 1 年

研究テーマ：佐渡島沿岸の浅海域における小型底生生物相の解明

堀井紘大・自然科学研究科修士課程 1 年

研究テーマ：日本近海産 *Anneissia* 属ウミシダ類の分類再検討

小早川莉穂・理学部 4 年

研究テーマ：佐渡島の河川におけるエビ類の分布と生息環境の解明

坂田美樹・理学部 4 年

研究テーマ：ニッポンウミシダにおける光受容関連遺伝子の探索と発現解析

飛田峻馬・理学部 4 年

研究テーマ：佐渡島におけるアカシマコブウミシダの共生生物相の解明

コミュニティデザイン室

豊田光世・教授・室長 博士（学術）

里山領域と兼任

新田将之・准教授 博士（農学）

里山領域と兼任

古郡憲洋・特任助教 博士（農学）

里山領域と兼任

濱田昌美・事務補佐員（6 月 1 日着任）

里山共生研究部門

豊田光世・教授・研究部門長 博士（学術）

里山領域と兼任

Jasmine Elizabeth Black・特任准教授 博士（土壌科学）

専門分野：オルタナティブフードシステム，自然共生，土壌科学

研究テーマ：オルタナティブフードシステム，持続可能な里山の自然資源の管理

渡辺智美・特任助教

研究テーマ：子どもたちの主体的な学びの支援

斎藤未沙・特任専門職員

センター事務室

石山 治・事務室長

伊藤航太・総務係長（5月1日着任）

高橋美由紀・事務補佐員

加藤聡子・事務補佐員

新潟大学 佐渡自然共生科学センター 2024（令和 6）年度年次報告書

発行日：2025 年 6 月 30 日

編集：佐渡自然共生科学センター 広報委員会（豊田光世，本間航介，川坂健人）

発行：新潟大学 佐渡自然共生科学センター

<https://www.sices.niigata-u.ac.jp>
